



社会福祉法人

熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 69号 令和3年4月



SYSKENの紹介と社会貢献活動

株式会社SYSKEN
代表取締役社長
福元 秀典

プロフィール

昭和33年12月27日生 62歳
昭和57年 鹿児島大学工学部卒業
昭和57年 電電公社入社
平成24年 西日本電信電話株式会社 取締役
平成26年 株式会社SYSKEN入社 取締役副社長
平成27年 株式会社SYSKEN 代表取締役社長

当社は九州エリアを中心として、光ケーブルの新設・撤去や携帯電話サービスを提供するための基地局建設工事及び、お客様の建物内における電気設備、空調設備、給排水設備工事等を主たる事業としております。

特にスマートフォン等の携帯電話サービスは、近年皆様の生活に欠かせない通信インフラとなっておりますが、更に高品質の「5G」サービスが開始され当社も熊本県内でアンテナ関連の工事を担当しております。

加えて、現在のコロナ禍におけるテレワーク等の定着により、当社の社会的役割は更に大きなものになりつつあります。

また、自然災害は年々被害が増大しており、当社の主たる事業基盤である九州エリアにおきましては、昨年7月の豪雨や9月の台風で甚大な被害を受けました。コロナ禍で人材確保が難しい中ではありましたが、当社グループの総力を挙げ、延べ1万人ほどの技術者を動員し、1か月ほどで復旧作業を完了いたしました。

熊本に本社を構える企業としましては、地元への社会貢献活動は不可欠なものと考えております。貴法人をはじめとする社会福祉法人へ、従業員と会社からの寄附を合わせて寄贈するマッチングギフトの実施、阿蘇の野焼きの支援活動、各種イベント後の清掃作業への参加等、積極的に社会貢献・地域貢献活動を行っております。会社からの強制ではなく、従業員自ら率先して

参加してくれており、大変うれしく思っています。特に7月の豪雨災害におきましては、企業ボランティアとして従業員数十名が積極的に参加してくれた結果、県から表彰していただきました。

さて、昨今のコロナ禍における社会不安の拡がりや、「新しい生活様式」によって孤立化が進んだためか、自殺者増加の報道を目にするようになりました。特に将来を担う若年層の自殺者が増加傾向にあるということに危惧しているところであります。コロナ禍が取束するまでは、これまで以上に自殺リスクが高い状態が続く可能性があるのかもしれませんが、このような状況の中、貴法人の活動の更なる重要性の高まりと、そのご苦勞を認識するとともに当社でもできる限りの協力を継続していきたいと考えております。

最後になりますが、貴法人の更なるご活躍と、その活動により一人でも多くの命が救われますことを祈念いたします。



通信69号 目次

巻頭言	P1	養成講座受講生の感想	P4	感謝報告	P7
自殺予防公開講演会	P2	インターネット相談	P6	お知らせ	P8

相談電話 096・353・4343

「SOSを出せない」 ～困っている子どもたちへの向き合い方～

日付：2021年(令和3年)3月7日(日)14:00～16:00



田中 慎一郎氏

プロフィール

1974年生まれ。19年間公立中学校に勤務(うちスリランカコロポ日本人学校3年間)。現在、熊本市教育委員会 総合支援課 学校サポート班 指導主事。平成26～28年度 熊本市教育センター委嘱研究員「情報モラル部会」部会長。平成26年度(独)福祉医療機構助成「青少年ネット安心安全活用事業」ではワークショップを担当。New Education Expo 2015大阪をはじめ各種パネルディスカッションにも登壇。九州ICT支援教育協議会理事。平成26年度全国いっしょに読もう新聞コンクールでは最終審査員を務める。新聞を教育に活用する日本新聞協会認定NIEアドバイザー。平成28年度熊本市教育功労者賞受賞(生徒指導)。平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞(生徒指導)。ソロプチミスト日本財団平成30年社会ボランティア賞受賞。NHKいじめをノックアウトスペシャルや地元テレビ局にも出演。令和元年度文科省委託SNS等を活用した相談体制の在り方に関する調査研究運営委員。日本キャリア教育学会・韓国青少年政策研究院主催の第3回日韓ラウンドテーブルで日本代表として登壇。年間70本ほどの講演等を務める。熊本日日新聞では「スマホの向こう側」を毎月第4木曜日連載中(4年目)。

「助けて」を出したくても出せなくて困っている子供がいるかもしれません。大人が子供の「声なき声」に耳を傾げるための在り方について考えていきましょう。

(少子化から)

少子化が進むと、大人から学べること、子供同士の中で学べる機会が失われていくということが挙げられます。集団に適応していく、子供たちは今、これがすごく苦手なような気がします。

同世代同士による人間関係からの学びの減少といえそうです。同級生から裏切られたって、何となく自分も裏切る事もあるし、何となく許せたりもするわけです。そこから折り合いをつけることが必要だと思えます。例えば、クラスの子供の数が減るということは自分に合う人も合わない人も減っていくとすると、その一人一人の人間が占める影響の割合が大きくなり、子供が多かった時代に比べて、起こり易いのではないかと思います。

(不快感情とその対応)

不快感情を適切に処理すること(周りに適応する)は、とても大事です。不快感情をゼロにすることはできないので、嫌なこと、ストレスがかかるときに何とかやり過ごすという心、回復する力、しなやかな心を持つ、そういう(レジリエンス的な)発想です。何か嫌だ、イラッとするなどのマイナスの感情を感じるところは脳の奥の方であって、それを脳の上の方に伝え、その不快感情の是非をコントロールするそうです。それは身を守りながら、周りに適応するための大切なプロセスとなります。しかし、安心・安全な環境の中で育っていない子供はここが切り離されていて、情報が伝わらず、コントロールができないために

気持ちが暴走するということを聞きました。不快感情を適切に処理するという事を学び忘れている子供たちは、その中で苦しんでいるのだと思うと、見えてくるものもあるのではないのでしょうか。心に湧いてくる不快感情を適切に処理できずに困っている、苦しんでいる子供は問題行動などいろいろなサインを出してきます。そこに向き合っていくと、そのSOSに気づけると思えます。

大人が脅威を与えて制御し、不快感情を無視して押し殺す。子供が失敗できる場も与えない社会、大人に問題があるのではないのでしょうか。

(我慢と自分の気持ち)

我慢とは、不快感情を受け入れ、とどめている状態、これが我慢＝耐性ではないかと思えます。不快感情は、安心・安全に包まれる中、脳の中で自動制御されるもの、これを目指すことが大事なのではないかと。嫌な気持ちを押しさえ込むのではなく、嫌な気持ちを抱えられる子供を育てることを目指す。これは子育て、学校教育、地域での社会教育など、大事な視点ではないかと思っています。

相手のことを考える授業はたくさんありますが、自分の気持ち、トラブルを起こしてしまった自分の気持ちや感情は焦点化も言語化もされません。子供は自分の気持ちを理解できないまま、相手の気持ちだけ押し量り、そして相手の気持ちに合わせて行動するというのを教えられます。何か一番大事なところが抜けていませんか。

(スマホ)

小学校の中で何が起きているのでしょうか。例えば、一つの傾向として小学校4、5年生に多く、彼らはSNSやスマホの普及し始めた頃、誕生した子たち

ともいえます。子育ての中でスマホを使うのは悪いことではありません。ただ、スマホの画面ばかりを見て、我が子の顔を見ていない。そのときに自分を見て欲しいと泣く。親はかまわざるをえない。そういう中で自分への関心を獲得してきた子供たちがいたとすれば、小学校ではライバルは35~40人で担任の先生は一人です。注目を集めるために、暴れまわるしかない。

アンケート、「家族はあなたといるとき自分のスマホを触っていますか？」では、長時間利用する子供の凡そ7割が自分といるときに触っているなっている（実際に家族が触っていることとは別）という事実が分かりました。これをどう捉えるかということは何か大きな、いろいろなものを読み解いていくポイントなのではないか思います。ゲーム依存とか、SNSの依存の問題もこういう背景があって、子供たちがゲームをしたくて依存になっているのではなく、何か後ろにある子供たちの背景が後押しをしているのではないかと思っています。

(今の子供の特徴)

今の子供の特徴の一つに「傷つくの極度に恐れる」があります。ケンカしたらもう二度と仲直りができないと思っている傾向があります。今日のテーマである身近な人に助けてと言えない。ネットには言えます。折り合いを付ける力が低下しているのではないか。

安心・安全な環境の中で友だちに嫌な事を言われて、その後に癒されたという経験がないと傷つくのすごく怖がります。更に、癒やされる体験の一つとして相談でも、完全に助けてもらえると思っているので、自分の期待する答えが返ってこなかったらと心配をする。それで、傷つきます。それが怖いからネットに行くと言いました。ネットだと要らない意見の人はブロックして捨てればよい。要る人の意見だけを聞けばよい。だからネットは楽ですと、言っていました。

(With You)

私は「あなたの気持ちが分からないから悩ませてくれ」というのが大事にしています。これが繋がりのある社会であり、いろいろな人が“いても”いいという世の中の考えではなく、いろいろな人が“いたら”いいという考え方が大事だと思います。いろいろな人がいたらいい。“自分にとって”の変わった人がいたらいいのです。それは自分にとっての変わった人であって、他の人にとっては変わった人ではないかもしれません。

(SOSと言語)

誰もみんな幼いときはSOSを出すプロだったと思います。

何かして欲しい事があつたら、泣きわめいていたのに、大きくなっていく中で、いつの間にか助けてと言わなくなっています。SOSを出す力を子供たちが失ったのではなくて、我々大人に受け止める力がなくなってきた、子供たちは諦めて出さなくなったのでは

ないでしょうか。SOSを出す力を子供たちに身につけさせようとしても、我々社会とか大人が変わらないと、SOSを出すという手段を子供たちは、自ら手放してしまうのかもしれないと思うわけです。「話を聞かない=無視=SOSを出さない」

不快感情とか、子供自身で処理できない状態を聴いてあげること、心の中にある程度のスペースができ、余裕があるから動ける。これが話を受け止めて聴くということだと思います。

子供が表現する=SOSを出してくれる手段は、言葉だったり、言葉ではなかったり、それらを受けとめられず、反応しないと、子供たちは無視されたと受け取ってしまうと考えました。腹痛、きつき、立ち歩き、座ってられない、何かしら子供のSOSがここに隠れています。

(心のコップ)

ストレスや感情の量的な表現として、心の状態をコップの水でよく表現します。水の種類は何でも構いません。家庭、恋愛、進路、心・身体など、いろいろな問題が貯まっていて、もやもやするとその水面が揺れて動きます。その揺れは両価的で死にたいとなったり、生きたいとなったり、それを繰り返します。コップの水が多ければこぼれやすくて、少ないと少々動いても大丈夫です。

子供たちは決して弱くなったのではなく、コップの水の揺れが大丈夫か、中の量はどうかということです。

揺れる心のコップの水の両価的な部分の一つに死にたいがありますが、ほんとうに死にたいのではなく、次のような流れで捉えると分かり易いと思います。「死にたい→消えたい→辛さから解放されたい→楽になりたい→辛くなければ生きたい」というふうに繋がります。実は、生きたいということを言っているような気がします。このコップの水が揺れていることを体外に表現(SOS)するのにいろいろなサインや、言語を使ってくるので、「助けて=(その裏では)気づいてほしい」と言っているのではないのでしょうか。

(SOSを受け止める)

どうやったらSOS、“助けて”を出せるようになるかなのですが、子供たちは雰囲気の変化に気づき、声をかけてもらえると、気づいてくれたという感じに触れる。助言ができなくてもいいです。

これは自分に関心を持ってくれているという安心感に繋がります。だからこそ、変化に気づくために普段から一緒の時間を過ごして、気付くようにならないといけません。これを積み重ねて信頼を得る、向こうから承認してもらうものです。子供といっしょに悩んで、寄り添っているうちにいつの間にか信頼してもらえるようになる。「相談していいよ。助けてと言っていていいよ」と、という言葉を使わずに、その気持ちをいかに伝えていくか。私たち、大人の腕の見せ所です。ここが格好いいと思います。



養成講座 受講者の声

熊本いのちの電話では、相談員養成のために2年間のプログラムを組んでいます。1年目は座学中心、2年目は実際に電話相談を受けながら研修を進めます。このうち1年目のプログラムの集大成とも言えるのが、毎年2月に行われる「一泊研修」ですが、今回はコロナ禍の中、一日研修となりました。今年度は19名の受講生が参加されました。受講生の感想をまとめました。

T・S氏

講座では遅刻の常習でしたが、スタッフの方の笑顔で仕事・家庭・講座のバランスを崩さずに済みました。感染対策で同期の方と直の交流も難しく、又ロールプレイでは緊張の連続でした。その厳しい雰囲気も同期のお陰で和み、一日研修では温かい雰囲気を感じました。4月から悩んでも同期やスタッフのみなさんの支えで受話器を取る勇気が出てきています。不安もありますが、一人でも多くの掛け手に寄り添いたいと思います。

K・K氏

マスク越しの日常、研修時も距離をとり、寂しさを感じました。一日研修や集合演習で仲間と会話すると気持ちが和らぎます。相談演習では講義の学びを使おうとすればするほどうまくいきません。「飾る言葉や技術、技法に囚われず、相手の感情をくみとり素直に気持ちを伝えることが大切」先生の助言に励まされました。傾聴の基本に立ち返りこれからも指導を仰ぎ、研修で学びながら隣人のように掛け手と対話ができるように努力していきます。

K・Y氏

一年間、学ばせていただいたことに感謝でいっぱいです。コロナ休講で仲間と会えないことはとても寂しく感じました。マスク越しで打ち解けることも難しい中、少しずつ仲間意識が出てきたところです。TVや新聞から昨年は女性の自死が増えてきたという現実にも胸が締め付けられるようでした。早く役に立つ自分になりたいと思う反面、自分が役に立てるだろうか不安もいっぱいですが、一瞬々々の出会いを大切にしていきたいと思います。

M氏

TVの画面で「いのちの電話」を知り、何かお手伝いしたいと、八ヶ月過ぎました。前半の講義は為になる事ばかり。益々相談員になりたいと思いましたが、後半の実践形式では正直とんでもない世界に入り込んでしまったと。本当に役に立てるのか?心挫けるばかりの中、一緒に乗り越えよう!と仲間たちの心強い励ましで続けています。コロナで感染防止を講義も心配りや工夫があり先輩方に感謝します。ありがとうございます。最後まで頑張ります!

T・I氏

二月遅れで始まった毎週火曜日の夜の講義は、距離を置きながら、受講生同士のおしゃべりもなかなかできないまま続いていました。様々な先生方からのお話、ロールプレイと半年が終わりました。学びは深く知識は広がりましたが、実際に電話対応はできるのかという不安も強まっています。コロナ禍の中で自分自身も悩むことの多い今、相談者となれるのだろうかという不安です。でも頑張ります。

K・K氏

第37期いのちの電話養成講座はコロナ禍でのスタートでした。様々な不安を抱える中で講義を受け、自分に相談員ができるのか、そればかりが大きくなっていてのを覚えています。丁度初めての講義から新型コロナウイルスにより世界や日本中がパニックになり出口のない不安の中で日々を生きていかなければならなくなりました。一年経った今も不安は変わらずありますが、こんな時代だからこそ「いのちの電話相談員」の必要性をとて大きく感じました。

M・N氏

応募のきっかけはラジオで早一年。傾聴と共感。福祉や相談、研修で多少知ってはいてもロールプレイでは頭が真っ白で掛け手の話は分かっても感情を受け止められない場面がありました。いのちの電話は一期一会で命の問題に関わります。その重さを受け止め、掛け手の思いに寄り添える相談員を目指します。マスク姿では親近感・連帯感に時間が必要でしたが、LINEやZOOMで親睦を深め、精一杯頑張れたと思います。4月から引き続きよろしくお祈りします。

K・N氏

受講する前は「傾聴カウンセリング技術」の取得が目的でしたが、自殺に関連する社会の諸問題や実情なども含む毎回の講座が書籍やインターネットから得た知識とは違い、先生方の生の経験や現状を含む内容で自分にとって大変充実した貴重な時間となっています。ロールプレイを経験して実際の現場を想像すると、まだ不安な気持ちしかありませんが、今後とも同期の仲間とコミュニケーションを取り、肩の力を抜きつつ、継続できたらと思います。

T・H氏

最初の講習以来、毎回自分の至らなさ、心で感じることを表現できない自分に質問しつつ、同期と励まし合い、ここまで続けることができました。特にロールプレイの後は、帰宅途中頭を冷やしながらかつ、反省ばかりの日々でした。それでも同期の皆さんの真剣な受講態度や掛け手に少しでも寄り添うという心構えに勇気づけられて、最後まで受講することができました。人が人を思いやる姿を見ることができて、私が救われたような気がしています。

K・M氏

これまでに友人九人が自死によりこの世を去った。これはいかん、何とかしなければと思い、「いのちの電話」の門をたたくが、講義を受ける中、自死をなくしたいと願う思い入れだけが先行し、言葉のプロセスに戸惑い、自信をなくしていく。コロナの影響で講義も減り、ますます自信をなくす。JRとバスを乗り継ぐ参加はコロナ感染の不安もあった。自死防止という目標のため初心に戻り、これからが本番、未知の世界に対し、めげずに努力したい。

Y・K氏

コロナのため休講の中、新年号（通信68号）が送られてきました。受講生募集のチラシがありました。去年見ているのに、今年は一際、表紙の絵と文章に注意が向きました。悲しみの雨に濡れている人がいれば共に雨に濡れ、悲しみに寄り添う。聖書の言葉でしょうか。「あなたに傘を地に置く行為は出来ますか」と問われているように感じました。覚悟はできるのか？うーん、難しい。そんな今の気持ちです。

Y・F氏

コロナ禍で心の距離を縮める機会に恵まれなかった37期生（コロナ期生）、休講も余儀なくされた。一日研修でのロールプレイ。学んだことをと思うが話の腰を折り、言葉は伝わらない。先輩曰く「思い、辛さなど感情を受け止める。自己決定はあくまで掛け手にある」と簡潔明瞭である。共感し理解したことを言語化する言葉の引き出しも欲しい。今、心細さに限りはないが振り返りを忘れず、同期や先輩に力をもらいながら進んでいきたい。

K・Y氏

傾聴することの難しさをロールプレイの事例体験の度に実感し反省します。掛け手の感情や心境を察し、即座に掛け手に共感を示す言葉や相槌で表現することが、傾聴に必要な手法でもあることは理解していますが、ただ聞くだけが精一杯で掛け手への共感や寄り添いなど、そんな余裕はありません。掛け手が安心して話せる電話対応ができるように普段から傾聴を意識し、感情の表現や共感が率直に表すことができるよう努めようと思います。

T・S氏

コロナ禍により、講座進捗の不安もある中、講師の方々には限られた時間の中、私達受講生に毎回熱心に、思いのこもった講義をありがとうございました。ロールプレイでは「いのちの電話」で話を聴くことの大切さ、難しさを改めて実感。まだまだ入り口に立っただけですが、同期の皆さんと一緒に、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

M・E氏

自己研鑽のつもりで応募して、いのちの電話の目的や電話での傾聴を開講式で知るに至り、できるようになれるか不安でした。講義は専門的で興味深く、ロールプレイでは言葉を心で感じる事、傾聴と共感の難しさを体感して、くじけそうでしたが、先生や同期の励ましで修了できました。自分を見つめ直し多くの事を学べ、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。また研修生として学び、心の声に寄り添える感受性を磨いていきたいと思っています。

J・F氏

「新型コロナウイルスの影響で苦境に立つ人達の『いのちの電話』が人手不足」との記事を読み、身近なところでコロナの影響で破産に追い込まれた話などを聞くにつけ、苦しみを抱えることを余儀なくされた方々のお役に立ちたいと思いつつも、今の私でいいのだろうかと思惑しています。これからのいよいよ実際に電話をとる段階に入ります。謙虚な気持ちで自分を振り返ることを厭わず、電話を受けさせていたきたいと決意も新たにしております。

E・K氏

研修を受ける度、命に係わることも多い言葉一つ一つに責任を感じています。それだけに意義深く、役に立ち、命も救う活動だと身も引き締め、研修に尽力する覚悟ができました。人は各々の悩みや問題を抱え、同じ相談はないと感じています。そして、正解は勿論、受け手の対応にも定型やマニュアルはありません。より一層勉学を重ね、研鑽を積み、悩みや相談を聴く場数を踏むことで自分も成長でき、対応も慣れていくものと思います。

J・K氏

不安なまま応募し、一年目の研修が終わろうとしています。これまでの研修を受講して聞き手であることの難しさ、奥深さを痛感しています。しかし、これまで何をしたらよいかかわからないままであったものが、気持ちと知識をもらって、俯瞰して、掛け手に向き合うという、明確な目標ができたようにも思います。これから前途多難でしょうが、一期一会の出会いを貴重なものとして、相手を損なうことなく向き合いたいと思っています。

Y・K氏

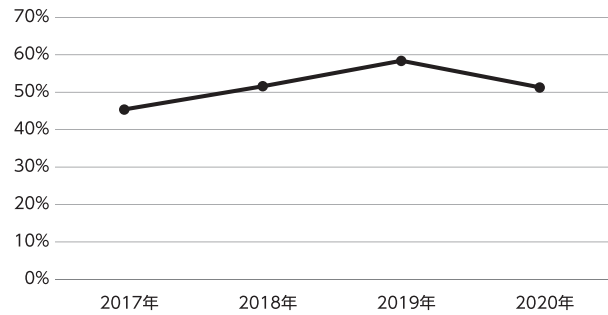
10年以上前に相談員の方と知り合いになり、2年間の研修を受ける勇気がなく、行動に移すことができませんでした。が、昨年の4月に自分にとっての衝撃的なことがきっかけで、遅れた開講も幸いして受けることになりました。仕事を終えて子供を預けてから通う参加でしたが、研修委員や先輩方の暖かさや熱心なご指導に本当に感謝でいっぱいです。まだ相談員としてやっていけるかどうか自信がありません。今後も研修を頑張りたいと思います。



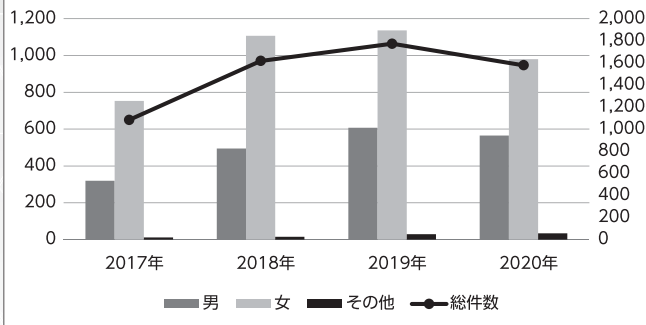
インターネット相談

日本ののちの電話連盟が主宰しているインターネット相談に熊本いのちの電話も2018年より参加し、少ない人数ながら活動をしています。全体傾向として、自殺志向率は50%前後を示し、極めて高いことが分かります。インターネット相談を利用する人たちは、性別で女性が多く、年代別では20代をピークに30代、40代と続きます。

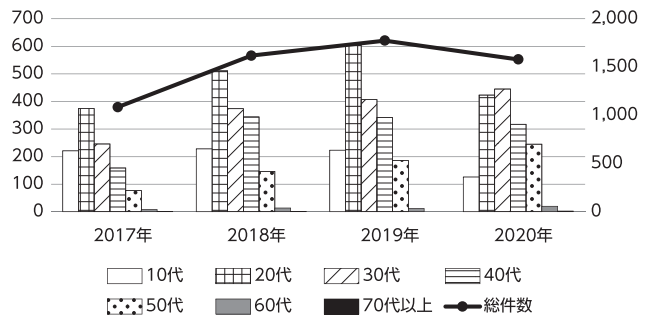
自殺志向率 (%)



年度別総件数：性別



年度別総数：年代別



M・S氏

昨年、インターネット相談員として認定を受け、月一回ではありますが相談活動をしています。メールという非対面性の中で、やっと自分の“今を語る”ことができる方々がいらっしゃることを聞き、そんな方々へのご支援を目指し、参加しました。メールという文章の行間や全体の雰囲気はどうつかむか、まだまだ先輩方の文章力には届きませんし、一件の返信文を作り上げる時間もかかります。一件々々の一期一会をたいせつに対応していきたいと思います。

N・U氏

昨年1月に福岡一泊研修に参加しました。2月につوناが発生し、4月から親の介護で、長崎の実家で在宅勤務。見送って、12月に戻りました。

90代の母が亡くなるのは、ある程度納得しますが、若い人の自死は、とても残念でなりません。少しでもメール相談の担い手となり、存在を認めてあげたいと思いました。この1月にOJTを受け、始まったばかりですが、相談者の心に寄り添って、実践していきたいと思っています。

K・N氏

ネット相談員をやっていると思うことの一つに、家庭での人間関係を背景に悩む若者がとても多いということがあります。

近年の社会環境は、働く年代の人々にとってとても生きにくい世の中になってきているように感じます。そんな中でのしんどさ、苦しさ、辛さを、家族のいる自宅に帰っても誰にも話せないまま夜が明けていく。そんな毎日を、長い年月繰り返してこられていることを相談文から読み取れます。

「家族の中に一人でも理解者がいたら…」と思いつつも、返信文には相談者の抱える辛さや苦しさに共感する言葉しか綴れず、私に出来ることは相談者が日々頑張っていることに対する労いくらいに過ぎませんが、次に返ってきたメールの中に感謝の言葉を見つけた時、「良かった。見ず知らずの私たちにでもいいから心の内をさらけ出して!」と願います。

K・M氏

月に1回、私は土日の午前中にメール相談をしています。

手順は、まず日程を決めて、事務局へメールで伝えます。そして、その日に会館の3階の部屋でメールでの相談に向かいます。

メールの内容は電話同様様々です。電話と違うのは、たった一言「つらい、死にます。」といった内容です。緊急性や深刻さを想像できますが、どんな言葉をかけることができるでしょうか?

過去に相談をしている方であれば相談履歴にアクセスして、その時の返信文を参考にしますが、私と相談者は一期一会です。返す言葉は限られます。「どうぞ命を大切に、返事をください。もう少しあなたのことを教えてください。」とパソコンの無味乾燥な文字に気持ちを込めることしかできません。祈りにも似た気持ちです。返信はあっという間に書きおわり、帰路につきますが、心にずしんと残ります。

そんなときはメール相談の仲間が頼りになります。仲間が増えることを願っています。

ご支援ありがとうございます

熊本いのちの電話は多くの皆様に支えられています。感謝をもってご報告させていただきます。

寄付感謝報告

(令和2年11月～令和3年3月16日現在)

法人・団体の部

(敬称略・順不同)

(株)TMプランニング 松尾 俊昭 インマヌエル熊本キリスト教会 (株)イソノ (株)うしじま酒店 熊本医療ガス(株) 熊本市内連合婦人会 熊本電気鉄道(株)	熊本トヨタ自動車(株) 医療法人社団 孔子会 福田 稠 (株)コスギ不動産 三陽(株) 木下 修 (医)寿量会 熊本機能病院 米満弘一郎 宗教法人 誠光寺	セベ産科用品(株) 竹下清税理士事務所 東京エレクトロン九州(株) 日本基督教団 熊本草場町教会 日本基督教団 錦ヶ丘教会 医療法人野尻会 熊本泌尿器科病院 みどりや 東 静一 宮川輝之法律事務所	(株)三宅保険総合企画 三宅 聡 (有)都環境開発サービスセンター 有斐総合法律事務所 井上 陽介 匿名2件
--	--	---	--

個人の部

(敬称略・順不同)

赤星 敦 荒木 伸夫 有馬 修二 稲尾 吉修 伊豆 貞幸 井上 英一 岩 浅真	岩上 江大 崎島 原大 進雄 澄仁 進雄 啓子 片神 鴻江 岡谷 江友 隆尚 友紀 治孝 正臣 富中 中野 田野 村富 豊公 慎一郎 喜枝 代子 平方 英子 英子 謙二郎 方山 恒俊 平山 石美 廣瀬 田秀 古庄 吟法 牧 勝美 三 浦 勲	三原 種昭 宮崎 房子 持永 瑞恵 山内 本武 米倉 容子 米光 宏美 笠 和 美	和田 全浩 渡辺 和文 渡辺 誠二 匿名13名
---	---	---	----------------------------------

※切手、お茶、コーヒー等もありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

募金式自販機寄付

(令和2年11月末日現在)

募金式自動販売機設置にご協力いただいている方々

(敬称略・順不同)

APパーク桜町 大津陣内メディケアセンター おおつかの郷 北熊本乗馬クラブ (株)九電工 九州電機工業(株) 九州ルーテル学院大学 九州ルーテル学院高等学校 菊陽レディースクリニック 熊本学園大学	熊本県医師会 (医)寿量会 熊本機能病院 熊本市水の科学館 KMバイオロジクス(株) 金剛(株) (医)孔子会 孔子の里 (株)SYSKEN 崇城大学慶賓館 建吉観光土地(株) (株)建吉組	(医)寺尾会 寺尾病院 和みほいくえん (医)聖公会 中村整形外科 西日本電材(株) (特非)花織部 (医)愛育会 福田病院 不二高圧コンクリート(株) 松尾建設(株) まつばせレディースクリニック 御船町	湯前町 (福)啓明会 峇山寮 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; font-size: small;">サントリービバレッジサービス(株)、 コカ・コーラボトラーズジャパン(株)の 2社のご協力を頂き、自販機によるご 寄付の仕組みを準備しております。 各自販機設置者様のご支援と上記 2社のご協力に感謝申し上げます。</div>
---	--	--	---



シャッターチャンス



熊本学園大学様のご好意により熊本いのちの電話の絵柄がラッピングされた寄付付サントリー自販機が設置されました。



熊本トヨタ自動車様からマッチングギフトとしてご寄付をいただきました。



東京エレクトロン様から長年にわたりマッチングギフトとしてご寄付をいただいています。

肥後銀行、熊本銀行、熊本第一信用金庫のご厚意で、寄附金お振込みの際の振込手数料を免除いただいております。
各金融機関のご厚意に対しあらためて感謝申し上げます。

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月11日にイオン熊本中央店とマックスバリュ田崎店でのお買い物の際には「熊本いのちの電話」のボックスへ黄色いレシートをご投函頂きますようお願い致します。寄せられた「黄色いレシート」の総額の1%相当額を、ギフトカードとして頂いております。レシートをご投函下さった皆様とイオン熊本中央店様、マックスバリュ田崎店様に感謝申し上げます。

2020年度 第37期生養成講座 後期修了

2020年度 第37期養成講座は、2020年2月から想像もできなかったコロナ禍にみまわれ、開講できるのか心配される中、23名の受講生を迎え、新町のYMCAに於いて、予定より2週間遅れの6月2日に前期が始まりました。コロナの防止のため、マスクをはめ、机も1席ずつ空けて座り、今までにない講座状況でした。

9月に前期が修了し、20名の方が後期に進まれ、講義及びロールプレイで、実践を学びました。

不用不急の外出を控えるという異例の状況の中、困難を乗り越え、20名揃って3月9日の修了式を迎えました。理事長より、一人一人に修了証書が手渡され、これまでの努力に対するねぎらいと、自殺者が増加している昨今、いのちの電話の相談員として活動していただきたいと期待の言葉をいただきました。

受講生の代表から、4月から、研修生として相談業務に携わり、この1年に培われた成果を発揮していく決意が述べられました。

今年はやります チャリティ公演

肥後っ子の勇姿をお楽しみ下さい。

「さよならコロナ、元気だ肥後っ子」

日にち：令和3年8月20日(金) * 会場：シアーズホーム夢ホール

いのちの電話 相談員募集



ボランティアです。
あなたも一緒にしませんか。

かけ手の声に
そっと寄り添い、
生きる力になりたいです。

かけ手の話に
目を澄まして聴く
活動です。

誰のために
何かできると
信じています。

相談員養成講座

相談員になるにあたって
受講が必要になります。
20才以上
学割制度あります

お問合せ・申し込み
資料請求はこちら

096-354-4343

編集後記

コロナ禍で“ニューノーマル”、“新しい様式”がたくさん生まれた。人のレジリエンスの高さを知る毎日である。ただ、そこに合わせられる人、合わせざるをえない人、合わせられない人、そこから去ることができる人、去らざるをえない人、何かを新しく得ることができる人、失わざるをえない人など、様々な立場があり、それぞれの苦悩がある。そこから生まれ、漂う何ともいえない寂寥感、苛々感や疲労感が私たちの活動で少しでも減ることを念う。

事務局日誌

令和3年1月～3月

1月		通信68号発行
2月	7日	第37期相談員養成講座 一日研修
	19日	熊本トヨタ自動車(株) 寄付金贈呈式
3月	7日	自殺予防公開講演会 (オンライン)
	9日	第37期相談員養成講座 修了証贈呈
	12日	令和3年度チャリティー公演打合せ
	12日	第64回理事会
	20日	研修委員・研修リーダー合同研修会
	26日	第38期電話相談員養成講座事前説明会 市民会館

※毎月10日 フリーダイヤル(10日8:00～翌日8:00まで)

※毎日フリーダイヤル(18:00～21:00)土日を除く

※毎月第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会



社会福祉法人 熊本のいのちの電話 事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号
TEL096-354-4343

発行人: 福田 稔 編集: 広報委員会

熊本のいのちの電話

検索



赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。